

## ■目的

- ・茨城国体の振り返りから、次世代の選手育成と指導者養成の発展へつなげる
- ・これまでの国体の結果を踏まえ、これからの国体チームのあり方を考察する

## ■報告対象者

- ・静岡県のサッカー指導者（4種・3種・2種）

## ■分析対象

- ・視察を行った4試合  
2回戦 静岡 vs 茨城（3-0）山口 vs 大阪（1-0）3回戦 静岡 vs 東京（3-1） 鹿児島 vs 香川（0-2）
- ・これまでの国体報告レポート（山口・岐阜・岩手・愛媛・福井）
- ・9月28日（土）松原良香氏 ストライカー育成講演会

## ■流れおよび全体像

2011年の山口国体での千葉県との同点優勝以来の8年ぶりの優勝となった。今回の茨城国体のチームは、ミニ国体で苦しみながら50年連続の本国体出場を決め、1回戦の佐賀県との試合では2-0から後半アディショナルタイムに同点に追いつかれるが、PKにより勝利した。その後は、豊富な運動量と粘り強い守備に加えて高い決定力のあるFWの得点により勝ち進み、広島との決勝を迎えた。チームは試合を勝ち進める中で、選手個人の成長が見られ、チーム力も日毎に増していったように思えた。決勝戦は、お互い5日間で5試合のタイトなスケジュールの中、登録16名の集中力やチームマネジメント力によりCKからの得点により1-0で勝利し、悲願である優勝を手に入れた。

## ■課題の発見と分析

□35分ハーフという普段より短い試合時間のなかでのゲーム運びと先制点の重要性

- ・先制点の重要性はもちろんであるが、相手のDFラインや相手のFWのプレスの状況に応じた、ビルドアップとポゼッション、背後を狙うパスの狙いや状況判断を個人、チームで整理しておくことが求められる。
- ・茨城県との試合では、前半ロスタイムに中央から右サイドへ展開し、中央へクロスを上げヘディングで決めて先制点。
- ・東京都との試合では、前半ロスタイムに相手のGKをシンプルに左サイドへ展開し、崩し中央へのグラウンダーの横パスをワンタッチシュートで決めて先制点。

□守備時のポジショニング

- ・特にSMFとSDFの関係性の構築
- ・SDFはCDFとの関係性（絞り込み）とCMFとの縦のマーク&カバーを理解し、実行したい。
- ・SMFはFWの追い方に応じたポジショニング。CMF・SDFとの関係性（縦切り・内切り）等のポジショニングと球際の強さを求めたい。

## ■トピックス

- ・山口国体の優勝と重なるのが、東海予選にて愛知に負けたら出場を逃すという中で本国体を決めたことは今回と共通する。（第2代表）本国体では中野誠也（ジュビロY→筑波大→ジュビロ磐田→ファジアーノ岡山※育成成型期限付き移籍中）が4試合5得点。今回の茨城国体においても東海予選で苦しみ、1回戦をPKで勝利し、千葉寛太（エスパルスY）が5試合8得点の活躍により優勝した。
- ・これまでの負けた試合では、シュート数は上回っているが決定力不足による敗退が多かった。  
2016岩手国体 VS 北海道 0-1 シュート数 12本→0点 2018福井国体 VS 石川 1-1 PK(3-4) シュート数 16本→1点
- ・タフなゲームを通じた選手・スタッフ陣の経験と成長に加えてストライカーの存在が鍵。

## ■提言（今後の選手育成、指導者養成に向けて）

- 3種、4種トレセン活動等を通じた中での選手発掘とベクトル合わせ
- GK/CDF/FWに特化した育成・強化策の構築
- 国体報告レポートや松原氏のストライカー講演からの学びを生かし、日常の練習環境を高めていく  
（過去の国体レポートは静岡県サッカー協会HP（指導者）に掲載中）